
ギブス不動産

関村俊介

登場人物

小林（姉）
小林（妹）
山崎
坂口
高野
小沢
垣原
佐山
木戸
若松
平田

病院の中にある、喫茶店。ヒラタとワカマツが座っている。

ヒラタは入院中、左手にギプス。ワカマツは見舞いに来た人。

別のテーブルのところに、サヤマが座って、新聞を読んでいる。

サヤマは右膝にニーブレス。

平田 ギプス不動産ってなんだよ。

若松 ん？

平田 なあ、ギプス不動産ってなんだよ。

若松 うん、なんだろうねえ。そんな言葉、初めて聞いたな。

平田 なあ、ワカマツ、教えてくれよ。

若松 俺も知らねえから。初めて聞いたって言ってんじやん。

平田 今日は、お見舞いに来てくれてどうもありがとう。

若松 おお。

平田 そろそろ教えてくれないか？ギプス不動産ってなんなのか。

若松 だから俺はそれ知らねえの。あと、なんで、さっきのタイミングでお札を挟んだ。

平田 本当は知ってるんだろ？

若松 知らないよ。知るわけねえだろ。

平田 そうだよな。：じゃあ、いいや、ごめん、忘れて。

若松 ：やだよ！

平田 なになに？

若松 気持ち悪いよ。このままギプス不動産を謎にした状態で帰るの気持ち悪いよ。

平田 でも、俺もわかんないから。

若松 とりあえず、俺にも、お前と同じところまで、わからせてくれよ。

平田 あかね。この病院のどこかに、ギプス不動産と呼ばれる物だか場所だかがあらしいんだよ。

若松 なにそれ？

平田 だから、それがなんなのかは、俺は知らないんだよ。

若松 あそつか。

平田 どうでもいいっちゃどうでもいいし。知ったところで、大したことじゃないと思うんだけどさ。

若松 気になるよな。

平田 そ。

若松 なんかヒントになるようなことないのかよ。

平田 ない。ノーヒント。

キドがコーヒーを2つ持って来る。

木戸 お待たせしました。

若松 ノーヒントかい。

テーブルにコーヒーを置いて去ろうとすると、サヤマに呼ばれる。

佐山 すみません。

木戸 はい。

佐山 ギブス不動産。

木戸 あ、はい。

佐山 よろしく。

キドは、キッチンのほうへ。

平田 いきなり大ヒントが出たね。

若松 出たな。裏メニューとかかね。

平田 どうしよつか？

若松 何が？

平田 あの人にギブス不動産のことを訊くか、それとも、あの人をこのまま観察して、さらなるヒントを手に入れるか。

若松 あー。

平田 訊いちやったほうが早いけどさ、これを訊くのって恥ずかしいことかもしれないじゃない。

若松 まあね。

平田 ここでこのままあの人を見てれば、恥ずかしい思いをせずに、わかるかもしれない。でも、このまま見てもわからないかもしれない。

若松 そうね。

平田 どっちにする？

若松 え？お前決めなよ。

平田 決めていいの？

若松 いいよ。

平田 じゃあ、見てる。

キドが来る。

木戸 どうぞー。

佐山 あ、はい。

サヤマとキドは喫茶店の奥のほうへ去った。

若松 そうきたか。ま、とりあえず、食べ物の名前ではないみたいね。

平田 やっぱりな！。

若松 何？

平田 なんか、裏目に出るような気がしたんだよね。

若松 あ、そう。

平田 最近、全部、裏目。この怪我だってさあ。

若松 朝、会社行く時に自転車にぶつかったんだろ。裏目とかじゃねえだろ。

平田 いやいや、あの日、俺が会社に行かなければよかったわけでしょ。

若松 はあ？

平田　なんで、あの日会社に行こうと思っちゃったのかなあ。

若松　普通、毎日、行こうと思うからさ。

平田　でも、あの日、金曜だよ？

若松　うん平日でしょ、行こうと思うのが普通だから。

平田　金曜休めば3連休になるんだよ？

若松　なるけどね。

平田　裏目ひいたわー。

若松　そういうの裏目って言わないよ。

平田　それだけじゃないよ。

若松　そうなの？一応聞こうか。

平田　朝、家を出てさ、電車に乗って、会社の近くの駅で降りて。改札を出てさ。C3出口の階段を上って、まっすぐ行って、薬屋の角を曲がったところで、自転車にぶつかったわけだよ。

若松　うん、裏目の要素がまるでない。

平田　あるよ。あの時、薬屋のところで左に曲がらないで、右に曲がってればなあ。

若松　会社につかねえわ。右に曲がったところには会社ねえから。

平田　1回右に曲がってから、Uターンすれば、会社につきますけど。

若松 腹立つわー。

平田 しかもだよ。

若松 まだあんの？

平田 あの時、左に曲がった瞬間に、目の前に大きなトラック。それで、危ねえ、と思って、よけたら、自転車にドーンだよ。あの時、トラックのほうに行つてればなあ。

若松 死んでたよ。トラックのほう行ったら、お前死んでたよ。

平田 トラックは駐車してただけで、止まってましたけど。

若松 …そろそろ帰ろうかな。

平田 どうしたの？急に。

若松 これ以上、お前と話してたら、お前の怪我を悪化させてしまいそうだから。

平田 やめろよな。

若松 冗談だよ。

平田 そんなことしたら、最高の弁護士を雇って告訴するからな。

若松 容赦ねえな。ま、また来るわ。

平田 うん。暇で暇でしようがないからさ、毎日来てよ。

若松 毎日は来ねえよ、恋人じゃねえんだから。

平田 恋人だって毎日は来ないよ。

若松 知らんけど。あ、ギプス不動産、なんなのかわかったら教えてな。

平田 ああ。このままここで、さっきの人が戻ってくるの待つから、すぐわかると思う。

若松 そうか。

平田 だから、明日も来なよ。

若松 明日は来ない。仕事だから。じゃ、またな。

平田 うん、じゃ、また。

ワカマツは去った。ヒラタはコーヒーを飲んで。

明かりが暗くなって、

タイトルでも出すかと思ったり思わなかったり。

ヒラタはそのまま。

同じテーブルにカキハラとオザワ。オザワは右腕にギプス。

もう1つのテーブルにサヤマが座って新聞を読んでいる。

小沢
で？

平田 その人が戻ってくるのを待ってたんだけど、結局戻って来なかったんだよ。

小沢　じゃ、結局、わからないままなんだ。

平田　そうなんだよ。どうでもいいんだけど、気になってるままなんだよね。

垣原　じゃあ、とりあえず、その人を探そう。入院してる人なんでしょ？

平田　探すっていうか、あの人なんだけど。

小沢　あの人かよ。よくこんな近くで噂話をしたな。

垣原　私、聞いてこようか？

平田　え？聞いてくれるの？

垣原　別にいいけど？

平田　知らない人だよ？

垣原　だから？

平田　そういうの平気なんだ。

垣原　平気だよ。

カキハラはサヤマのほうへ行く。

カキハラはいきなりサヤマの頭を叩いた。

垣原　えいつ。

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

ギブス不動産（おためしサンプル）

2013年5月28日 初版発行

著 者 関村俊介 © 2013年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-49-2903
